

# 平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

## ■ 施設名

横浜市東寺尾地域ケアプラザ

## ■ 事業報告

### 1 全事業共通

#### 地域の現状と課題について

- ◆エリア内の 2 連合の高齢化率（H29.3）は、生麦第 2 地区＝21.8% と、なっています。
- ◆現状自治会町内会を中心とする地域の活動は、民生委員さんや婦人部の方々、保健活動推進員さんなど大勢の方に支えられて活発に活動していますが、現役員さんの高齢化や次代の役員さんのなり手不足などの問題は継続しています。
- ◆地域包括支援センターで受ける相談を見ると、介護保険だけではなく、保健医療など生活課題についての相談も増えています。
- ◆29 年度は地域サロンの「はなみずき」がオープンし現在、生麦第 2 地区には合計 5 つのサロンが活動しています。他にもふれあい鶴見ホスピタルが行っている認知症カフェなど、町の見守りの活動が活発化していますが、なかなかそういった場に参加されない方への取り組みや、認知症や慢性疾患を抱えながら独居又は高齢者のみ世帯などが突発的に問題として上がってくる事例も増加しているように思われます。
- ◆日々の相談から高齢化のみならず、若い世代から中高年に渡るひきこもりの問題等も多くはないが取り組むべき問題と考えております。

#### (1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- ◆介護保険制度や公的サービスでは対応できない多種多様な相談が増えています。相談ケースは家族関係・地域とのトラブル・疾患・貧困など複雑化していて一回の相談対応では解決に繋がりません。必要に応じて自治会役員・包括職員・区生活支援センター職員・区社会福祉協議会がネットワークミーティングを継続して開催しました。その結果、健康被害にあって近隣住民への支援や警察との連携強化が図れました。
- ◆ひきこもり当事者や家族からの相談も増えています。話を聞いて欲しいだけの方から困って何とか繋がるサービスを探している方など様々で、ケアプラザで定期的開催している講演会「ひきこもること」に参加を呼びかけると共にケアプラザ広報誌を活用して地域住民に向けて「ひきこもりの方」への理解を深める啓発周知に努めました。
- ◆ケアプラザは山の上であり来館が難しい方も多く、積極的に地域に出向き集まっている方々に合わせて情報提供や講座のチラシ配布を行いました。子育てサロンでは子供向けの行事や地域の情報を提供しました。
- ◆地域のお祭りなどの行事や地域の会議に積極的に参加してケアプラザの役割・機能の周知に努めました。自治会役員、民生委員等の方々とのつながりを深め、地域の中で支援を必要としている方を早期に発見し支援に繋げる連携が図れる様な関係強化に努めました。
- ◆子育て世代向けには、子ども、親子に向けたコンサート等のイベントや区主催の育児教室などでケアプラザに来ることを日常としていただき、いざというときに相談

しやすい環境と関係づくりを目指しました。個別の相談はありませんが子供向けの行事や保育園申込の問い合わせ等があり、丁寧に情報提供しました。

- ◆年間を通じて子供向けに提供している「ふらっとる一む」では、月平均 40 名の利用がありました。室内には鶴見区内や近隣の子育て拠点やイベント等の案内を掲示し、子育て世代への情報提供・周知を行いました。

## (2) 各事業の連携

- ◆毎月第 3 木曜日にカンファレンスを実施し、所長、看護師、主任 CM、社会福祉士、生活支援コーディネーター、区役所で毎回支援困難ケースの現状と支援内容を話し合いました。また、役割分担など具体的に支援方針を決め取り組みました。同時にケースを取り巻く地域課題について情報共有を行い課題解決と地域支援の取り組みにつなげました。
- ◆年 1 回開催する「ケアプラザ笑福東祭」ではケアプラザの存在や機能の周知を目的に、ケアプラザ全職員が担当を持ち自治会役員・婦人部・保健活動推進員など地域役員の方々、住民ボランティアの方々、区役所、薬剤師会など様々な方と一緒に企画運営しました。
- ◆地域で開催されている食事会やサロン、イベントには 5 職種が連携して参加する体制を維持しました。それぞれの職域が行う事業紹介やケアプラザに集約される詐欺被害など様々な地域情報・見守りシール等認知症施策など、集いのメンバーに合わせて情報提供しました。

## (3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ◆地域ケアプラザを運営する上で必要な専門資格・経験のある職員を年間通して配置しました。新人・ベテラン等経験や知識の差には、部門を超えて職員が連携を図り事業を組み立てるなどそれぞれの専門性と経験を活かし取り組みました。また、一人ひとりの職員の言動を含め、ご利用者や家族・事業者からの不信を招くことがないように職員の対応が統一できるようミーティングや連絡ノートを活用して情報を共有し対応しました。
- ◆専門技術・知識習得に向け外部研修には積極的に参加を促すと共に、法人の研修制度に基づく法人内施設職員が集まる研修や交流会にも参加を促し人材育成に努めました。
- ◆職員会議時等に行う内部研修では、各部門の職員が研修企画から開催まで担当し実施しました。研修に参加できなかった職員へは資料配付と振り返りレポートによりフォローし、全職員対象の体制を維持継続しました。
- ◆公正・中立性の確保については定期的な周知を行うとともに、ニュースにおいて事故不正などの情報があれば素早く職員へ伝達し事故防止に努めました。

#### (4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ◆ 所長と5職種で地域の会長定例会・生麦第二地区民児協定例会・同地区保健活動推進員定例会、その他地域発信の催しや行事に出向き、ケアプラザの事業紹介や消費者被害など地域情報の提供等を行い地域の関係機関との連携強化に努めました。
- ◆ 地域の各団体の活動をまとめたシニアマップを更新しました。高齢者を中心にした取り組み情報を分かりやすく「みえる化・わかる化」した内容で、高齢者自身や支援する関係者・居宅ケアマネジャーにも配布し、インフォーマルサービスの情報発信と共に高齢者支援のネットワーク構築に努めました。
- ◆ 生麦第二地区健民運動会にブースを設置して参加、健康啓発と「あいねっと」の活動PRに努めました。健康啓発の取り組みには多数の参加がありました。
  - ・握力ランキング：253名参加
  - ・乳がんセルフ検診啓発：43名参加
  - ・体脂肪測定：107名参加
- ◆ 地域向けに開催した認知症サポーター養成講座では、「生二ひまわり会」・「ほほえみボランティア」など地域で活動するグループの方々や数名のキャラバンメイトさんに協力いただき認知症の理解を深める活動の普及啓発に努めました。
- ◆ 11月には、生麦中学校ブロック罹災者ネットワークの災害時情報伝達訓練に参加しました。公立小中学校・麒麟横浜工場・横浜商科大学など協力機関・行政が集まり、防災無線の点検や事前の打ち合わせを重ね災害時の相互支援の連携強化を推進しました。
- ◆ 買い物が困難な高齢者の課題に対して生活支援コーディネーターが移動スーパーのお試し販売会を実施、商店企業・自治会役員や民生委員さんとの買い物困難者解決に向けたネットワークづくりを推進しました。
- ◆ 年1回開催する「ケアプラザ笑福東祭」では自治会役員・婦人部・保健活動推進員など地域役員の方々、住民ボランティアの方々、区役所、薬剤師会など様々な方と一緒に企画運営、更に小中学校生徒や地域で活動する団体の活動を紹介、地域障がい者作業所の販売などを通して幅広い世代向けの内容とし、地域共生社会の実現に向け取り組みました。地域福祉保健計画の周知では、クイズ式アンケートの手法を組み込み、区役所職員と協力して実施しました。「2018笑福東祭」には、1000名を超える参加・来場者がありました。

#### (5) 区行政との協働

- ◆ 「あいねっと」支援チームでは、地区独自で作成したアセスメントシートと経過記録を活用し、継続的な地域支援を行いました。11月の地区懇談会では「災害図上訓練DIG」を実施、コミュニティーマップづくりから災害時役立つ情報の共有と資源を生かす取り組みについて各地区グループに分かれて話し合いました。当日作成したマップは支援チームでまとめ、各地区に情報提供しました。
- ◆ 月1回区役所高齢者支援担当保健師・ケースワーカーとケアプラザ職員でカンファレンスを実施、支援困難ケースでは担当するケアマネジャーを含めた連携協働に努めました。認知症・虐待などにかかわる様々な課題を個別ケースの課題解決として捉えるだけでなく地域全体の課題として、区役所・認知症初期集中支援チーム・医療連携拠点・区社協と連携して地域ケア会議や研修会に繋がりました。
- ◆ 各種職種の連絡会・所長会ではお互いが向上出来る建設的な意見を言い合える関係作りと連携協働に努めました。横浜市のエンディングノート検討委員会や鶴見区健康づくり推進会議には委員として職員を派遣しました。
- ◆ 玄関横の「情報ラウンジ」には、区や各福祉施設、医療機関の各種講座や健康づくり、介護予防、地域づくりのお知らせを掲示しました。各種案内は見やすく探しやすいように、カテゴリーごとに揃えて配置しました。

## 2 地域活動交流事業

### (1) 自主企画事業

- ◆親子向けには、「くりんくらん」のパネルシアターやプールなど、申し込み不要で定員なしの事業を行い、初めてでも参加しやすい環境を作りました。東寺尾ふれあい協働農園と協力して、野菜の収穫体験や、毎年大人気の落ち葉プール遊び、長い流しそうめんでは、父親の参加もたくさんあり家族で楽しめる事業の需要があることが分かりました。夏休みに子ども向けの事業を増やすことでとても助かったという保護者の声や、HPやツイッターで情報を取得しているという声もありました。
- ◆毎年恒例となりつつあるHUG実働訓練は、岸谷小防災拠点の方と開催しました。昨年の訓練の反省を踏まえ、かなりブラッシュアップできた内容となりました。生麦第二地区以外の拠点の方達の参加もあり、関心の高い事が伺えました。また馬場小学校地域防災拠点と馬場ケアプラザがリアルHUG訓練を行ったと聞き、訓練が波及している事を実感できました。
- ◆毎年好評の長い流しそうめんは、竹の有効活用のため、馬場の赤門（寺尾奉行）、岸谷第4自治会、障害児余暇事業でも同様の事業が行われました。
- ◆「不登校・ひきこもり」に関する事業を区社協と共催事業として開催しました。キラーコンテンツ（鶴見区在住のお笑い芸人）による講演「ひきこもるということ」を毎月開催し、自治会の協力を得て古民家や自治会館にも出張しました。9月に開催した「不登校・ひきこもりが終わるとき」講演会は区外・市外からの家族の参加があり、関心の高さが伺えました。横浜市役所職員（生活支援課）の見学も多数ありました。
- ◆ツイッター・ブログを駆使し、事業の案内だけでなく地域の活動も紹介しました。
- ◆高齢者の食事会などに積極的に向いて、ケアプラザの事業の案内を行いました。

### (2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ◆貸館の空きのある枠を再確認し、ケアプラザHPや広報紙で具体的に情報提供しました。
- ◆貸館利用団体の清掃と懇親会では、清掃の前に包括支援センターによるSOYLINK説明会を開催し、清掃後は活動紹介や直接要望を聞く機会を設けました。
- ◆福祉保健活動募集一覧表を作成掲示し、各団体の活動状況を見える化しました。HUG実働訓練に積極的に参加してもらいました。

### (3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ◆デイサービス職員とボランティア会議を定期開催し、デイサービスボランティアが活動しやすい環境づくりにつとめました。
- ◆ケアプラザ便りのデイサービス版の面を活用しボランティア募集を行いました。
- ◆デイサービス、包括支援センター職員と協力してボランティアポイント説明会を初めて開催しました。キラーコンテンツの「ひきこもるということ」講演会とつなげて、続けて参加してもらいました。3月にも開催する予定です。
- ◆ボランティアセンターと連携して横浜商科大学の「ボランティア活動演習」の授業に参画しました。ボランティアの受け入れを積極的に行いました。

#### (4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ◆ケアプラザ便りでは事業案内の他、地域のサロン情報を積極的に掲載しました。ブログは週1回の頻度で掲載し、ツイッターともリンクさせました。ツイッターを駆使し地域活動をリアルタイムで紹介しました。ツイッターはフォロワー170まで増えました。
- ◆子育てサロンや育児教室、貸館利用の親子サークルメンバー等にケアプラザ便りや事業チラシを手渡しし、直接の周知につとめました。事業チラシは手に取りやすい小さいサイズで両面印刷にするなど小さな工夫をしました。
- ◆コホート図は作成せず、町別の年毎人口変化を表にし、必要に応じて配布しました。
- ◆事業開催時にはアンケートをとりました。結果を来年の事業計画に反映させていきます。

### 3 生活支援体制整備事業

#### (1) 事業実施体制

- ◆5職種プラス所長会議は必要に応じて行いました。また、4職種会議プラス所長会議は定期的実施し共催事業、自主事業を中心に地域支援の方法を検討しました。
- ◆自治会や老人クラブ主体の居場所、たまり場へ参加し情報収集に務めました。
- ◆来年度、全6回の男性向け地域デビュー講座開催に向けてニーズ調査を実施しました。
- ◆共催を含めて、計5回の自主事業を実施することが出来ました。
- ◆地域で生活支援コーディネーターの認知度が低いため、チラシを作成し地域の会議等でご案内をさせて頂きました。

#### (2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ◆サービスリストは横浜市で更新したAyamuの入力内容と併せて反映を行いました。老人クラブの活動、ケアプラザの利用団体を中心に更新しました。
- ◆6月に実施した地域ケア会議では自治会、民生委員、保健活動推進員、事業所、企業が参加されグループワークを行いました。その結果、未把握の高齢者の対応。居場所やサロン活動。買い物支援に対して意識を持たれていることが分かりました。
- ◆地区概況シートとケアプラザに蓄積している情報からグラフ作成し見える化を行いました。自治会毎に既往歴の傾向を明らかにすることが出来ました。その情報から介護予防給付のサービス利用者の半数がヘルパー利用であり掃除の依頼をしていることが分かりました。
- ◆地域アセスメントのために地域を具体的に歩き地形の印象を肌で感じるように務めました。地域の方は、住んでいる場所のことが分かっている人とは話しやすいためか、ラポールの形成に役立ちました。

### (3) 連携・協議の場

- ◆自治会主催のサロンと共催で認知症予防スリーA体験会を開催しました。サロンの初参加が6名と普段の3倍になりました。事業を通し仲間づくりの場を拡大することが出来ました。
- ◆6月の地域ケア会議から買い物に困っている高齢者がいることが分かりました。地域で活動している移動スーパーと連携し、停車マップを作成し配布致しました。また、お試して販売会を実施しました。その後、2か所で定期的に停車するは運びとなりました。1か所は自治会館前で停車するため自治会と連携し居場所などへ繋がることを期待しています。
- ◆生活支援グループの助け合いボランティアひまわり定例会に参加し地域のちょっとした困りごとの把握をしています。また、本年度より活動を開始しているため自主運営するためのバックアップをしています。
- ◆地域サロンの振り返り会に参加しております。活動が数年経過したサロンでは、参加者が固定化し人数が減少傾向にあります。新規参加者や新たな取り組みに向け情報提供と事例提供を行いました。

### (4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ◆担当エリア内で活動しているボランティアグループ（助け合いボランティアひまわり、せせらぎボランティア）と区社協主催の生活支援グループ交流会に参加しました。両グループ共に依頼が少なく活動を継続していくことが出来るのだろうかとの定例会で挙がっていました。交流した結果、依頼件数は大きく変わらないことが分かりました。終了後は交流会の内容を持ち帰りグループで内容を共有しました。次年度の活動に活かしていこうと検討しています。今後も継続的に後方支援を行い、研修や交流があれば参加を働きかけていきます。

## 4 地域包括支援センター運営事業

### (1) 総合相談支援業務

#### ①地域におけるネットワークの構築

- ◆民生委員・保健活動推進員の各定例会などに出席し連携をとりながら個別相談や研修講師を紹介しお互いに有益な活動ができるように協力体制の維持に努めました。
- ◆ほほえみステーション（元気づくりステーション）や地域サロンは対象者を限定してないため地域とつながっていない孤立しがちな地域高齢者の情報が把握できません。今後も地域の身近なセーフティネットワークとして機能していくよう支援ネットワークの構築に努めていきます。
- ◆東寺尾3自治会が協働し開催している「ひまわりサロン」には毎月包括支援センター職員と生活支援コーディネーターが参加し運営方法の後方支援を行ないました。
- ◆ひまわりサロンの活動を通し住民同士がお互いに見守り助け合う必要性を感じました。その結果、平成30年4月より男性メンバー6名を中心に“助け合いボランティアひまわり”（有償生活支援グループ）が立ち上がりました。東寺尾1・2・3丁目在住の独居高齢などを対象に枝切り/草むしり、ゴミだし、電球替えなどちょっとしたお困りごとをお手伝いしています。年間でのべ256件のご依頼がありました。毎月開催している定例会には毎月包括支援センター職員と生活支援コーディネーターが参加し円滑な運営が行えるよう支援しました。今後も定例会に参加し活動しているボランティアと一緒に地域ニーズを把握しな

がら介護保険では対応できない生活支援を提供できる仕組みづくりに地域住民と一緒に取り組んでいきます。

- ◆サロンはなみずきの運営メンバーから3ヶ月に1回開催する振り返り会に包括支援センター職員に参加して欲しいとの要望が定期的に参加しています。また介護予防講座を開催したいなどのご相談もあり包括支援センターの強みや専門性を生かしサロン運営の後方支援を行ないました。
- ◆ジャンプ岸谷の1回/3ヶ月の運営会議に包括支援センター職員も参加し今後の運営について必要な情報提供をするなどの後方支援を行ないました。今年度はジャンプ祭りを初めて開催しました。
- ◆地域の薬局や郵便局の専門性を活かし地域向けの勉強会の講師として協力していただきました。参加者からは好評であり次年度も計画を検討しています。

## ②実態把握

- ◆総合相談の内容やSOSネットワークの登録利用状況を町別毎に数値化し運営協議会や自主事業等で情報提供をおこなって共有をしました。
- ◆民生委員・保健活動推進員の定例会や老人会・食事会などの会合へ積極的に参加し地域の情報収集を行いました。またサロンの参加者からも地域の情報を聞き取るように心がけて関わりを継続しました。
- ◆居場所やサロン運営には民生委員や地域の役員の方が携わっておりこの活動を通して包括支援センターの職員との関係性を強化することで民生委員等からの高齢者の相談を受け地域の実態把握することができています。
- ◆生麦第二地区社協が実施開催した「相談援助調整事業」「生活見守り活動」の情報共有会に2回参加することで生麦第二地区の民生委員がどのような相談に対応し包括と連携しているのか実態を知ることができました。

## ③総合相談支援

- ◆相談票は初相談先別にファイリングしており継続的に関わる必要性のある方は個別ケースとして地区別に整理し3職種が共有し相談対応しやすい状況にしています。緊急性の高いケースの場合には区役所とも連携を図り多職種と同行訪問を行いました。
- ◆虐待ケースはケースファイルを色分けし、“わになるネット”登録者には印をつけ管理しています。
- ◆年度末には個別ケースの現状把握のために区役所・担当ケアマネジャー・民生委員等に連絡し状況把握を行いました。
- ◆相談を重ねることで買い物に困難な高齢者や地域があることが明確となり生活支援コーディネーターと課題を共有し解決策に取り組みました。また移動が困難な高齢者も多く今後は移動支援についての解決策に取り組むことも重点的な課題と認識してまいります。

## (2) 権利擁護業務

### ① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ◆ 成年後見・相続・遺言などの相談を士業の先生を招いて無料相談会を6/22、9/11、12/10の計3回実施し、10組が相談されました。また訪問相談や早目の相談希望の際には個別に対応しています。
- ◆ 権利擁護の視点から早めにケアマネジャーと連携・訪問し助言を行い区役所との支援に繋がっています。今年度は本人申立ての支援も行いました。
- ◆ 振り込め詐欺被害が増えており鶴見警察署生活安全課と相談し地域のサロンにて講話をして頂きました。高齢者の食事会の場においても啓発活動を行いました。またSOYLINKシステムのベルリンガーを活用して鶴見区の防犯情報を発信しています。
- ◆ 横浜市エンディングノート検討会へ参加18区の方々とエンディングノートひな形の作成のための意見交換を行いました。

### ② 高齢者虐待への対応

- ◆ 高齢者虐待相談が入った際には緊急性判断シートを活用し且つ包括職員及び所長も含め最低2名以上で状況の確認・判断を速やかにおこない区役所へ報告・相談を行いました。
- ◆ 今年度は新規で2件の虐待相談が発生し継続ケースも含めて必要時には認知症初期集中支援チームや主治医と連携しています。
- ◆ 介護者の介護疲弊への支援として「出張！介護者のためのオレンジサロン」を5/29、9/27、1/10の計3回開催し、13名の方が参加されました。茶話会形式で虐待を未然に防ぐために傾聴を続けています。地域のキャラバンメイトやおりづる会メンバーも参加していただき協力体制となっています。ケアマネジャーや参加者・地域の方からのお声をいただき臨時開催することもありました。
- ◆ 区内9包括の社会福祉士が主体となってワーキンググループを立ち上げ、「高齢者虐待防止ガイド」の作成と普及啓発に用いる資料作りに積極的に関わり完成することができました。1月には鶴見中央地域ケアプラザエリアの民生委員の方々へ「高齢者虐待防止ガイド」を用いて勉強会しました。

### ③ 認知症

- ◆ 生麦第二地区は認知症予防の関心の高いためスリーA方式を用いスリーA認知症予防リーダー研修・養成講座を3回コースで開催しました。のべ22名の参加がありました。参加者がスリーAを通し楽しみながら認知症予防の体験をすることができました。その結果、元気づくりステーションや地域サロンでスリーAの体験会を開催する運びとなり地域に波及効果がありました。次年度は地域人材が中心となってスリーAを通して認知症予防できる地域づくりに取り組んでいきます。
- ◆ 「生二ひまわり会」や「ほほえみボランティアグループ」や個人のキャラバンメイトとともに認知症サポーター養成講座や認知症の普及啓発活動を開催しました。具体的には地域交流と包括支援センターにて上寺尾小学校4年生3クラスを対象として認知症サポーター養成講座を開催しました。また「生二ひまわり会」とは多世代交流も兼ねて2月に東寺尾どろんこ保育園にて人形劇を行いました。「ほほえみボランティアグループ」や夏ボラの学生とともに「流しそうめん大会～認知症普及啓発～」の一環として認知症クイズや体操などに取り組みました。1月には横浜商

科大学にて認知症サポーター養成講座を開催しました。

- ◆東寺尾キャラバンメイト連絡会では今年度の取り組みについて一緒に検討し各種事業の企画から一緒に考え当日の運営の協力をいただきました。
- ◆「生麦第二地区互助型セーフティネット」の仕組みについて、運営協議会をはじめ専門職種向けの勉強会、デイサービス運営推進会議、貸館団体向けなど様々な機会を通じて説明をおこない SOYLINK の登録者を増やす活動を続けております。1月には横浜商科大学において開催しました。幅広い世代に向けて周知できるようにシステム変更すべくパナソニックと連携しております。また実際に運用するための訓練として「見守りチャレンジ」を今年度は5/26、11/10の2回開催し、延べ51名の方に参加してもらいました。各自治会の協力もいただきながら今後も身近な地域でおこなっていきます。
- ◆企画・開催している「ひがし脳トレ楽習教室」はみんなで認知症予防を目指す教室として、そろばん/ドリル/調理実習など多彩なメニューに取り組んでいます。また特別企画としてバスハイク・外出支援・クリスマス会なども開催し好評を得ています。包括支援瀬センターの職員が継続的にかかわることで高齢者が要介護状態に移行しないためのインフォーマルサービスの役割を担っています。また介護が必要な状態となった場合には早期介護保険を申請するなど切れ間ない支援ができるよう心掛けています。ほほえみボランティアの協力も得ています。今後も参加者の意向を確認しながらみんなで楽しく認知症予防に取り組んでいきます。
- ◆11/1に開催した「認知症サポーターフォローアップ講演会」にて地域ケアプラザの活動紹介について9包括の情報をまとめ発表させていただきました。
- ◆地域ケア会議を重ね見えてきた地域課題から当包括支援センターは「認知症になっても安心して暮らしやすいまちづくり」を重要取り組みのひとつとして力を入れています。

### (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

#### ①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ◆認知症カフェの啓発活動としオレンジカフェ鶴見のコンサート開催をバックアップしました。  
認知症初期集中支援チーム・地域住民、医療職や医療学生、ケアマネジャー、行政職員総勢約90名の方が参加しています。また、石井先生とキャラバンメイトさんが繋がり、キャラバンメイトさん達の新たな活動の場となっています。
- ◆地域の民生委員、保健活動推進員各定例会へ随時参加し、地域包括支援センターの事業や介護保険関係等の情報を提供しています。
- ◆寺尾地域ケアプラザ・馬場地域ケアプラザと共催で「災害」をテーマに地震発生時の各専門機関の役割や活動の情報交換を行いました。災害時における医師会在宅医療連携拠点における医療の視点など、地域防災拠点の委員さんや介護事業所の職員で医療との連携を意識した話し合いが行われました。警察や消防救急の方々にもご協力頂き、身近な危険個所の情報や予防策を学び顔の見える関係づくりと、公的機関と地域住民が集い、互いの役割や情報の共有を行いました。

## ②医療・介護の連携推進支援

◆定期的にエリア内の医療機関・介護事業所を訪問し、ケアプラザ新聞の配布と共にサロンなど地域のインフォーマルサービスの情報提供を行いました。訪問時にはお互いが抱えている課題や困りごとなど情報交換を行いました。

## ③ケアマネジャー支援

◆ケアマネジャーからの困難ケースの相談が入った時は、カンファレンスを開催するようにしました。関係機関やドクターにもご参加頂き、専門的見地から多職種連携・地域の自治会や民生委員にもご協力頂き、可能な限り早急に対応し、具体策を多職種で検討できるように努めました。

◆特定事業所加算の要件に事例検討会の実施が義務付けられたことを踏まえ、ケアマネジャー自身が事例検討会を開催できるように「事例検討会の手法」の研修会を実施しました。昭和女子大学大学院の高橋学先生をお招きし、事例検討会のみならず対人援助等幅広くご講義頂きました。48名の参加がありました。今では区内で事例検討会が活発に行われています。

◆区内の委託事業所のケアマネジャーと主任ケアマネジャーに、地域ケア会議の理解を深めて頂けるよう積極的に参加を呼びかけました

◆在宅医療連携拠点、訪問看護連絡会、鶴見区事業所連絡会つばさねっと、鶴見区主任ケアマネジャー連絡会が共催し、「人生の最終段階における意思決定支援」をテーマに、勉強会の企画担当をしました。アドバンスケアプランニングのプロセスを共通理解し、意思決定支援に向けた事例検討を行いました。

## (4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

### 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

◆今年度は最初に包括レベル地域ケア会議を開催し、医師をはじめ多職種、地域住民、行政機関とでグループディスカッションを行い、フォーマル・インフォーマルの社会資源の情報共有と足りない社会資源を共に考えました。具体的な生活の困りごとに関しては、生活支援体制整備事業へ繋げています。

◆地域課題を有する個別ケース地域ケア会議を開催し、地域住民自ら地域課題に着目し「高齢者の疾患」の勉強会を開催したいという具体的なアクションプランが出来ました。目的は「認知症になっても住み慣れた地域で生活できる街づくり」です。地域包括ケアシステム構築に向けて、地域と医療と介護のネットワークを一つ一つ構築しています。

◆緊急を有するケースに関しては、カンファレンスを繰り返し開催し、専門職と地域と共同して地域包括支援ネットワークの構築を図りました。

◆共通の地域課題を持つ3包括協同で開催した包括レベル地域ケア会議では「震度6の発災時、私達が出来ること」と題して、地域と公的機関と医療介護事業所がそれぞれの動きや役割を情報共有することが出来ました。今年度は様々な地域ケア会議の形にチャレンジしてみました。

◆エリアにある「ふれあい鶴見ホスピタル」が実施している認知症オレンジカフェの取り組みを推進し、地域住民（民生委員・キャラバンメイト）と医療職や医療学生、介護の専門職との連携を図りました。医療に繋がらない方には、認知症初期集中支援チーム・民生委員・ケアマネジャー・行政・包括協働でオレンジカフェに参加、認知症物忘れ外来の受診に繋がりました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ◆心身機能の維持向上に努め重度化や閉じこもりなどの廃用症候群を予防するためにサービス利用について利用者と一緒に考えながら出来る限り訪問よりも通所サービスを利用するよう働きかけ自立を促すためのプランニングを心掛けています。また委託先のケアマネジャーにも同様に助言を行いました。
- ◆ケアプラザの広報誌などを活用し利用者1人1人に地域の情報を提供し自立した生活を送る事ができる環境づくりに務めています。またケアプラザの広報誌などを通じてケアプラザで把握しているインフォーマルサービス情報をケアマネジャーにも提供しプランニング時に役立てて頂くようバックアップしました。
- ◆委託先のケアマネジャーには契約時には立会いプランニングに対し包括支援センターに支援計画書の提出時やサービス担当者会議に出席した際に個別に対応し助言を行っています。また電話や対面でも個別相談に対応しました。
- ◆地域の中に居場所やサロンが多くあることで身近に通える居場所の情報提供に努めました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ◆ほほえみステーションは（元気づくりステーション）自主活動期となり区役所・地域包括センターの後方支援のもと10名のほほえみボランティアで月1回自主運営ができています。新規参加者も随時募集しています。ボランティアの得意なことや地域企業とのコラボも取り入れています。また年間の予定に関しては参加者の意見も反映しながらほほえみボランティアと話し合い決めていきます。  
参加者は後期高齢者が多くを占め徐々に受身的に参加することも多くなってきました。  
次年度もスリーAなどのプログラムを取り入れ参加者が主体性を持ちながら仲間意識が向上し一体感を感じるよう運営支援を行なっていきます。
- ◆ほほえみボランティアと介護予防活動の情報交換会を年7回行いました。また年間の予定に関しては参加者の意見も反映しほほえみボランティアと話し合い、区と一緒に運営の後方支援をしています。この話し合いを続けながら自主活動が円滑に運営できるように継続支援を行ないました。
- ◆歩く会は13名の登録メンバーで月2回定期的に外ウォーキングをしています。平成31年4月からは元気づくりステーションに移行予定となり当包括支援センターエリアでは元気づくりステーションが2ヶ所となります。
- ◆岸谷会館に出向き出張GOGO健康教室を8回コースで開催しのべ72名の参加ありました。参加者からはもっと続け欲しいとの声も聞かれ満足度の高い講座となりました。生活支援コーディネーターも参加し生活支援コーディネーターの役割を周知すると共に地域の生活支援の情報も提供する機会となりました。  
今後も積極的に地域出向き身近な近場所でGOGO健康講座を開催していきます参加しやすい環境つくります。  
また講座の中で減塩についての講義もあり減塩に関する知識も高まりました。  
当担当エリアの要支援認定者は高血圧・心疾患・脳疾患の割合が高いです。（平成28年度データ）今後要介護状態を防ぐため減塩について周知する講座を継続して開催していく必要性があります。

- ◆保健活動推進委員と共催で、生麦第二地区で活動している保健活動推進員を対象に株式会社クリエイイトエス・ディの協力を得て「骨量測定と栄養のお話」講座を開催し49名に参加がありました。  
また前年度開催し好評を得、岸谷第二自治会から共催開催の要望があり、「脳と足をきかたえて転倒予防～日常生活で活かせるエクササイズ編～」を開催し45名に参加ありました。  
介護予防講座をする際、地域組織と共催することでより多くの参加者を集客でき効果的に介護予防の普及・啓発ができます。  
またサロンなどの運営支援で自治会組織と連携し良好な関係性を保つことで地域から自主的に介護予防の講座を開催したいというご相談があるようになり、自治会館を使用し出張して講座を開催す機会が増えました。
- ◆地域交流と共催で音楽療法士（地域人材）を講師に招き「歌って健口講座」を開催し参加者からは好評を得ることができました。  
2016年度の当圏域のJAGSE調査の結果によると口腔機能の低下の割合は20.2と高値にあります。今後も楽しみながら口腔機能改善に取り組める講座を開催していく必要があります。
- ◆3月にサロン見学会・交流会 in さくら茶屋にししばを開催しました。元気づくりセッションやサロン・居場所の運営者27名の参加がありました。  
実際ににししば茶屋を見学することで活動のイメージができたり、活動しているボランティアの声も聴くことができ良い刺激も受けたようでした。お互いに交流することもできた有意義な見学会・交流会だったと多くの感想が聞かれました。

## 5 その他

### 施設の適正な管理について

#### (1) 施設の維持管理について

- ◆「指定管理者が扱う業務に関する基本協定書」に基づき建築物・建築設備・電気・消防など法令に定められた保守点検は専門業者に委託し実施しました。  
総合巡視点検、消防設備点検、電気設備点検、エレベーター、自動ドア等
- ◆開所から17年経過し大型備品や設備に経年劣化を来しているため、委託先の設備管理会社と連絡を密に図り、区と相談しながら利用される地域の方々に支障が出ないように計画的に修繕を行いました。  
【今年度の大きな修繕】
  - ・空調設備改修
  - ・調理室蛍光灯交換
  - ・エレベーター部品交換
  - ・入浴設備（ライナーリフト）交換
- ◆日頃から職員が施設内の設備・環境に気を配りました。開館日の始業前と閉館時には、職員による目視点検とエレベーター作動確認点検を行うと共に日誌に記録し職員間で共有しました。
- ◆施設衛生整理を徹底し、専門業者による清掃や職員による日々の清掃はもちろん、綺麗で清潔な環境の維持に努めました。館内・館外の植栽管理としては定期的な剪定と害虫駆除・草取りを随時行いました。

## (2) 効率的な運営への取組について

- ◆年間の予算案を元に、月ごと、四半期ごとの事業収支計算書・キャッシュフロー計算書を、委託先会計事務所と協働で作成すると共に指導を受けて取り組みました。
- ◆法人運営のケアプラザ7施設での所長会を定期的実施、効果的な運営について情報交換・検討しました。職員の採用・育成は、法人のスケールメリットを生かし法人本部と役割を分担して実施することで施設単位での職員採用・育成にかかる事務を効率化しました。
- ◆ケアプラザ内で2ヶ月毎に経営確認会議を開催し、本部役員、会計事務所担当者から収支実行状況を職員に周知し、職員全員がコスト意識を持って日々の業務に取り組む環境を維持しました。
- ◆事務所や倉庫など業務改善5S活動に取り組み、物品管理では担当職員を決め取り組みました。在庫管理を徹底し消耗品購入は計画的に購入するなど経費節減に努めました。

## (3) 苦情受付体制について

- ◆法人の「苦情解決対応マニュアル」「苦情対応手順」に基づき、利用者や家族・地域住民からの苦情を真摯に受け止め原因を追及し改善できる体制を整え、いつでも対応できる体制を整えました。
- ◆「苦情受付担当者」を配置し、「苦情解決責任者」である所長及び全職員が、受け付けた苦情は職員会議を通して情報を共有しました。また、その体制が誰にも分かるように玄関フロアに掲示しました。
- ◆「ご意見箱」を施設内4か所に設置、意見や苦情の窓口を設けました。運営協議会委員を第三者委員としても委嘱することにより、地域の方々が苦情等を伝えやすい環境を作りました

## (4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ◆法人の「災害対応マニュアル」に基づき、管轄の消防署の指導を仰ぎ年間4回避難訓練を実施しました。通所介護利用者・貸館利用者にも参加頂き、職員による円滑な避難誘導ができる様「火災発生時の手順」を掲示するなど日頃から誰でも対応できる環境を整備しました。また来館者の方々に AED や消火器の設置場所が分かり易いように、絵付きの看板を貼るなど工夫しました。
- ◆災害時特別避難場所として、対応できるよう災害時備蓄物資を適正に管理し、「特別避難場所マニュアル」を整備し、社会的責任を果たすべく施設運営に努めました。
- ◆今年度も地域小学校の子どもへの駆け込み場所としての周知を図りました。
- ◆館内に設置している AED が緊急時誰でも使用できるように、職員向けに救命救急の研修を行いました。

## (5) 事故防止への取組について

- ◆法人の「事故対応マニュアル」に基づき、事故発生時に行う対応・連絡・報告などスムーズな対応が出来るよう手順を掲示し職員への周知徹底に努めました。
- ◆事故発生時には是正・予防処置報告書、又はヒヤリハット報告書を作成、是正処置対応策を取り上げ、職員会議や各部門会議を通して共有しました。また、リスクマネジメント委員会（毎月実施）においては、他施設事故の情報も共有し事象の検討を通じて事故防止に取り組みました。
- ◆職員の事故防止意識を高めるため、リスクマネジメント研修を実施しました。

#### (6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ◆法人の「個人情報保護マニュアル」「情報保護規定」に基づき、全職員、実習生、ボランティア等に対し、個人情報の誓約書を交わすとともに、個人情報の重要性を内部研修等で周知徹底しました。
- ◆「横浜市の個人情報の保護に関する条例」、厚生労働省作成の「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン」を遵守するとともに、リスクマネジメント委員会において情報漏洩も事故防止と同じ体制で取り組みました。
- ◆個人情報の記載されたファイル等の書類は鍵付き収納庫に保管しノートパソコンは閉館時に鍵付き書庫への保管を徹底するとともに、デスクトップパソコン等は盗難防止策（ワイヤーロック等）を施しました。
- ◆介護保険請求事務関係の個人情報は ASP を導入し、施設外にあるサーバーに保管することにより、万が一の盗難等事故の場合も流出の可能性の排除の体制が維持できるよう機器の管理を徹底しました。に取り組みました。
- ◆FAX 送信・郵送に関しては、「個人情報を含む文書の送付手順」「個人情報漏洩に関する事故発生時の対応手順」を基に声を出しての確認とダブルチェック確認体制を徹底しました。

#### (7) 情報公開への取組について

- ◆地域ケアプラザにおいて情報公開の開示があった場合には、法人の「情報公開規程」に則り、個人情報保護に最大限に配慮しつつ、積極的に情報を公開できる体制を維持しました。
- ◆来館者がいつでも閲覧できるように、随時最新情報に差し替えを来った決算書・運営規定・各種規定等を受付カウンター内に設置しました。ホームページには毎月の行事・講座等予定や取り組みの報告をタイムリーな掲載に努めました。
- ◆介護保険事業に関してはかながわ福祉サービス振興会のサービス評価を受け、その結果は閲覧できる様掲示しました。

#### (8) 人権啓発への取組について

- ◆相談者や来館者へは分かりやすい説明・相手の立場に沿った対応を心がけました。配布や掲示するチラシは分かりやすい文面となるよう複数の職員で内容を確認し理解いただけるよう心掛けました。
- ◆横浜市作成の「横浜市人権瀬策基本指針」を活用して、全職員対象に人権擁護研修を実施しました。参加できなかった職員には資料を配布し、研修レポート提出を求め人権に対する意識を徹底しました。
- ◆法人全体で全職員対象のセクハラ、パワハラに関するアンケート調査を行いました。調査結果は職員に対して掲示・公開し、必要に応じて相談できる窓口を周知徹底しました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ◆ケアプラザの顔である出入口花壇の整備に心がけ、季節折々の花卉類が来館者に大変好評でした。園芸業者による庭木の剪定や、ボランティアさん協力による中庭の整備など来館者に喜んでもらえるよう努めました。
- ◆横浜市ルート回収に協力し、ゴミの分別リサイクルの活動を推進しました。
- ◆横浜市の「ヨコハマ3R夢」に則ってゴミの分別の徹底に取り組みました。
  - ・分別の徹底
  - ・古紙、缶・ビン・ペットボトルなど分別排出を心掛け積極的にリサイクル。
  - ・コピー用紙の裏紙再利用、長3封筒の所内再利用。
  - ・館内利用者には、ゴミの持ち帰り依頼と協力をお願い。
- ◆省エネルギー対策として下記の内容を行いました。
  - ・空調の設定温度を夏は28度、冬は20度に設定。
  - ・夏期にはうちわの貸し出し。
  - ・光熱費削減のため省エネを心掛け、館内利用者にも節電の呼びかけ。

## 介護保険事業

### ● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

#### 《職員体制》

##### 《職員体制》

地域包括支援センター3職種

看護師、社会福祉士、主任ケアマネジャー

#### 《目標に対する成果等》

- ① 遅滞のないケアプラン作成する。
- ② 法令を順守しサービス事業者への改善依頼も行えるように職員の法解釈力の向上を図る。
- ③ 委託先居宅介護支援事業所との連携強化を行う。

#### 《実費負担》

通常のサービス地域を越えて訪問・出張する場合には交通費実費負担とする。

#### 《その他（特徴的な取組、PR等）》

ケアプラザ内の居宅介護支援事業と連携して困難ケース等への対応力が高い

#### 《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 無し

#### 《その他（特徴的な取組、PR等）》

●委託先の事業所が作成したプランに対しては、適切にアセスメントされた上で作成されたものかを注目し、必要に応じて、助言・指導を行いました。

#### 《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
113	110	112	115	116	119
10月	11月	12月	1月	2月	3月
122	124	125	127	125	129

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

介護支援専門員 常 勤 3 名 (管理者兼任 1 名)  
 非常勤 2 名 (認定調査専従 2 名)

《目標に対する成果等》

- ① 自立支援に向けて安心できるサービスをケアプランに組み込んで行くために、サービス事業所と事例検討会を開催するなどの連携を図りました。
- ② 法令を順守したケアプランの質の向上を図る。(特に訪問介護、通所介護等の加算に対応したケアプラン作成と認知症の方へのケアプラン作成能力の向上を図りました。

- 研修・勉強会・交流会等に参加を行い、サービス事業所との連携方法を確認しケアプラン作成能力の向上を図る事が出来た。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

通常実施地域（鶴見区・神奈川区）を越えて訪問する場合に実費負担としました。

- 実績なし。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ① 各種業務のマニュアル化を行っており、担当介護支援専門員によるレベル差の解消に努めています。
- ② ケアプラザの居宅介護支援事業所として、地域の困難ケースの受け入れを行って行きます。
- ③ 年度中に特定事業所加算を受けることにより、質の向上と収益の改善を目指します。

- 特定事業所加算Ⅲの算定に伴い、週 1 回以上の会議や 24 時間電話対応が出来る体制を整え、中重度者や支援困難ケースへの積極的な対応を行いました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
78	76	77	76	77	79
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
83	66	72	70	76	75

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 通所介護（大規模Ⅰ）
- 認知症対応型通所介護
- 通常実施地域（鶴見区、神奈川区、港北区）

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分	【通所介護】	【認知症対応型通所介護】
（要介護1）	662円	1072円
（要介護2）	782円	1188円
（要介護3）	905円	1305円
（要介護4）	1030円	1422円
（要介護5）	1154円	1539円
● 食費負担	810円（1回）	810円（1回）

《事業実施日数》 週6日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

相談員：常勤5（管理者、看護師、介護職兼務含む）  
 看護師：常勤2 非常勤2  
 介護職：常勤9（相談員兼務含む）非常勤8  
 機能訓練指導員：常勤2 非常勤3（看護師兼務含む、内あん摩マッサージ指圧師1）

《目標に対する成果等》

- ・ 家族会を継続して実施し、ご家族と交流・意見交換をすることが出来ました。伺った要望等をサービスにつなげることが出来ました。
- ・ 防災訓練を継続して行うことで災害時の対応方法の確認が出来ました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・ 介護度・医療度が高い方に対しても、自立支援を目的とした計画の立案。
- ・ 多種類のクラブ活動（音楽・手芸・工作・陶芸・園芸・書道・絵画・川柳・テーブルゲーム・体操・リハビリ機器）
- ・ 介護福祉士取得者の体制（2019年4月1日現在17名中12名介護福祉士）を強化してスタッフの専門性向上を図り、質の高いサービス提供に取り組みます。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
707 82	800 88	795 87	778 97	791 101	741 88
10月	11月	12月	1月	2月	3月
794 90	769 99	689 97	694 101	706 97	760 116

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 横浜市通所介護相当サービス
- (介護予防) 認知症対応型通所介護

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

● 1割負担分 【横浜市通所介護相当サービス】

- (事業対象者) 1766円
- (要支援1) 1766円
- (要支援2) 週1回程度 1766円
- 週2回程度 3621円

● 食費負担 810円(1回)

【介護予防認知症対応型通所介護】(実質利用者はありません)

- (要支援1) 926円
- (要支援2) 1035円

● 食費負担 810円(1回)

《事業実施日数》 週6日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

相談員: 常勤5 (管理者、看護師、介護職兼務含む)

看護師: 常勤2 非常勤2

介護職: 常勤9 (相談員兼務含む) 非常勤8

機能訓練指導員: 常勤2 非常勤3 (看護師兼務含む、内あん摩マッサージ指圧師1)

《目標に対する成果等》

- ・ 家族会を継続して実施し、ご家族と交流・意見交換をすることが出来ました。伺った要望等をサービスにつなげることが出来ました。
- ・ 防災訓練を継続して行うことで災害時の対応方法の確認が出来ました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- ・ 介護度・医療度が高い方に対しても、自立支援を目的とした計画の立案。
- ・ 多種類のクラブ活動(音楽・手芸・工作・陶芸・園芸・書道・絵画・川柳・テーブルゲーム・体操・リハビリ機器)
- ・ 介護福祉士取得者の体制(2019年4月1日現在17名中12名介護福祉士)を強化してスタッフの専門性向上を図り、質の高いサービス提供に取り組みます。

《利用者実績(契約者数)》

※ 単位は省略してください。

【単位: 人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
13	13	14	14	15	17
10月	11月	12月	1月	2月	3月
19	18	15	12	12	12

平成30年度「横浜市東寺尾地域ケアプラザ」  
収支予算書及び報告書(一般会計)＜地域活動＞

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	15,176,500		15,176,500	6,474,631	8,701,869	横浜市より
利用料金収入			0		0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業	400,000		400,000		400,000	
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0		0	0	0	
印刷代			0		0	
自動販売機手数料			0	0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
その他(指定管理充当分)			0		0	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	3,587,500		3,587,500		3,587,500	
その他(提案時控除 法人負担分)	3,587,500		3,587,500		3,587,500	
収入合計	15,576,500	0	15,576,500	6,474,631	9,101,869	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	8,835,000		8,835,000	9,222,678	387,678	
本俸	6,000,000		6,000,000	6,237,432	237,432	
社会保険料	90,000		90,000	1,045,814	955,814	
手当計	1,800,000		1,800,000	1,788,384	11,616	
健康診断費	20,000		20,000	12,116	7,884	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふゆんぽ
退職給付引当金繰入額	115,000		115,000	0	115,000	
その他	0		0	138,932	138,932	
事務費	1,585,500		1,585,500	1,906,033	320,533	
旅費	1,500		1,500	4,500	3,000	
消耗品費	400,000		400,000	713,448	313,448	
会議随行費	0		0	0	0	
印刷製本費	5,000		5,000	197,367	192,367	
通信費	80,000		80,000	147,529	67,529	
使用料及び賃借料	0		0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	200,000		200,000	0	200,000	
図書購入費	50,000		50,000	0	50,000	
施設賠償責任保険	0		0	0	0	
職員等研修費	100,000		100,000	432	99,568	
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	700,000		700,000	741,547	41,547	
手数料	500		500	3,915	3,415	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	48,500		48,500	97,295	48,795	
事業費	342,000		342,000	231,476	124,515	
運営協議会経費	42,000		42,000	55,991	13,991	予算-指定額
指定管理料充当 事業	300,000		300,000	175,485	124,515	
管理費	4,814,000		4,814,000	4,539,389	1,939,590	
建築物・建築設備点検	2,100,000		2,100,000	0	2,100,000	予算-指定額
光熱水費	0		0	1,124,979	0	
電気料金					0	
ガス料金					0	この列は入力しない
水道料金					0	
清掃費	1,500,000		1,500,000	1,567,493	67,493	
修繕費			0		0	予算-指定額
機械整備費	474,000		474,000	200,673	273,327	
設備保全費	1,195,000		1,195,000	1,519,864	324,864	
空調衛生設備保守	200,000		200,000	456,770	256,770	
消防設備保守	540,000		540,000	134,501	405,499	
電気設備保守	300,000		300,000	41,569	258,431	
害虫駆除清掃保守	35,000		35,000	22,935	12,065	
駐車場設備保全費	100,000		100,000	0	100,000	
その他保全費	20,000		20,000	864,089	844,089	
共益費	0		0	0	0	
その他	85,000		85,000	126,380	41,380	
公租公課	0	0	0	737,814	737,814	
事業所税			0		0	この列は入力しない
消費税	0		0	737,814	737,814	
印紙税					0	この列は入力しない
その他( )					0	この列は入力しない
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分					0	この列は入力しない
当該施設分					0	この列は入力しない
二一対応費					0	この列は入力しない
支出合計	15,576,500	0	10,762,500	16,637,390	618,080	
差引	0	0	4,814,000	10,162,759	8,483,789	

自主事業費収入	300,000		300,000	278,571	21,429	
自主事業費支出	300,000		300,000	510,047	210,047	
自主事業収支	0	0	0	231,476	231,476	→自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「横浜市東寺尾地域ケアプラザ」

収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,427,000		23,427,000	23,427,000	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当事業(包括)			0	0	0	
指定管理料充当事業(介護予防)			0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)			0	0	0	
自主事業収入			0	98,000	98,000	
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代			0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他(指定管理充当)			0	0	0	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	29,367,000	0	29,367,000	29,465,000	98,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	23,830,000	0	23,830,000	20,252,300	3,577,700	
本俸	13,000,000		13,000,000	10,920,186	2,079,814	
社会保険料	3,000,000		3,000,000	2,600,169	399,831	
手当計	7,500,000		7,500,000	6,352,883	1,147,117	
健康診断費	30,000		30,000	43,369	13,369	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	300,000		300,000	0	300,000	
その他	0		0	335,693	335,693	
事務費	2,440,000	0	2,440,000	1,947,799	492,201	
旅費	10,000		10,000	205,229	195,229	
消耗品費	500,000		500,000	434,465	65,535	
会議贈い費	100,000		100,000	7,773	92,227	
印刷製本費	50,000		50,000	200,498	150,498	
通信費	250,000		250,000	140,479	109,521	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費	300,000		300,000	0	300,000	
図書購入費	100,000		100,000	0	100,000	
施設賠償責任保険	0		0	0	0	
職員等研修費	200,000		200,000	79,353	120,647	
振込手数料	10,000		10,000	0	10,000	
リース料	700,000		700,000	260,534	439,466	
手数料	20,000		20,000	484,931	464,931	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	200,000		200,000	134,537	65,463	
事業費	1,490,000	0	1,490,000	1,061,027	428,973	
協力医	630,000		630,000	504,000	126,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	400,000		400,000	220,716	179,284	
指定管理料充当自主事業(介護予防)	151,000		151,000	163,533	12,533	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	172,778	136,222	予算:指定額
管理費	1,517,000	0	1,517,000	1,206,663	310,337	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	525,000	0	525,000	299,044	225,956	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	
水道料金			0	0	0	
清掃費	380,000		380,000	416,675	36,675	
修繕費	126,000		126,000	0	126,000	予算:指定額
機械警備費	50,000		50,000	53,343	3,343	
設備保全費	136,000	0	136,000	404,007	268,007	
空調衛生設備保守	75,000		75,000	121,419	46,419	
消防設備保守	10,000		10,000	35,751	25,751	
電気設備保守	25,000		25,000	11,049	13,951	
害虫駆除清掃保守	5,000		5,000	6,096	1,096	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	21,000		21,000	229,692	208,692	
共益費	0		0	0	0	
その他	300,000		300,000	33,594	266,406	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他( )			0	0	0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	29,277,000	0	29,277,000	24,467,789	4,809,211	
差引	90,000	0	90,000	4,997,211	4,907,211	

自主事業費収入				98,000		
自主事業費支出				318,716		
自主事業収支	0			220,716		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入				0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出				0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				0		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: 横浜市東寺尾地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日  
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護						
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	
収入	介護保険収入			0	24438	23218	1220	111089	122742	-11653			0	
	その他	0	0	0	0	0	0	310	0	310	0	0	0	
	介護予防ケアマネジメント費			0			0			0			0	
	事業・負担金収入			0			0			0			0	
	食費			0			0			0			0	
				0			0			0			0	
				0			0			0			0	
	その他			0			0	310		310				0
	<b>収入合計(A)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>24438</b>	<b>23218</b>	<b>1220</b>	<b>111399</b>	<b>122742</b>	<b>-11343</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
	支出	人件費			0	18999	15690	3309	75996	76466	-470			0
事務費				0	1408	10509	-9101	18952	22153	-3201			0	
事業費				0	1284		1284	18730	15567	3163			0	
管理費				0			0			0			0	
その他		0	0	0	0	0	0	432	432	0	0	0	0	
利用者負担軽減額				0			0			0			0	
消費税				0			0			0			0	
介護予防プラン委託料				0			0			0			0	
減価償却費				0			0	432	432	0			0	
その他				0			0			0			0	
<b>支出合計(B)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>21691</b>	<b>26199</b>	<b>-4508</b>	<b>114110</b>	<b>114618</b>	<b>-508</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>		
<b>収支 (A) - (B)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2747</b>	<b>-2981</b>	<b>5728</b>	<b>-2711</b>	<b>8124</b>	<b>-10835</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>		

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同様に記載をしてください。

# 平成30年度 自主事業収支報告書

## 横浜市東寺尾地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
事例検討の手法	①特定事業所主任CM	45000	地活				45,000		
	②48人		包括	45,000					
	③0		介護						
			生活						
困難事例カンファレンス	①困難事例対応事業所	10000	地活				10,000		
	②12人		包括	10,000					
	③0		介護						
			生活						
ひがし脳トレ楽習教室	①高齢者	150,304	地活		98,000		66,821	83,483	
	②247名		包括	52,304					
	③1,000円、2500円		介護						
			生活						
ひがし脳トレ楽習特教室 特別企画(1月)	①高齢者	3,078	地活					3,078	
	②17名		包括	3,078					
	③なし		介護						
			生活						
真夏の涼み処 ～東寺尾ミステリーシアター～ (年間3回)	①高齢者・地域住民	8,772	地活					8,772	
	②90名		包括	8,772					
	③なし		介護						
			生活						
ほほえみボランティア連絡会	①ボランティア	3,666	地活					3,666	
	②13名		包括	3,666					
	③なし		介護						
			生活						
健康ひろば 実践編！脳と足を 鍛えて転倒予防 (出張も含む)	①高齢者	17,000	地活				17,000		
	②45名		包括	17,000					
	③なし		介護						
			生活						
徘徊高齢者検索アプリ 登録会 SOYLINK	①専門職	10666	地活					10666	
	②23名		包括						
	③なし		介護						
			生活	10666					
サロンはなみずき研修会 スリーA体験会	①地域一般	14639	地活				12,000	2,639	
	②42名		包括						
	③なし		介護						
			生活	14639					
助け合いボランティア ひまわり勉強会 (移動支援サービスにつ いて)	①ボランティアメンバー	4776	地活					4776	
	②7名		包括						
	③なし		介護						
			生活	4776					
平成30年度 助け合いボランティアひ まわり総会 (生支、包括共催事業)	①ボランティアメンバー	7697	地活					7697	
	②5名		包括						
	③なし		介護						
			生活	7697					

平成30年度 自主事業収支報告書

出張！介護者のための オレンジサロン(年3回)	①地域一般	4505	地活		4505					4505
	②13名		包括	4505						
	③なし		介護							
			生活							
東寺尾キャラバンメイト 連絡会	①認知症キャラバンメイ	4863	地活		4863					4863
	②13名		包括	4863						
	③なし		介護							
			生活							
生麦第二地区民生委員 茶話会	①民生委員	8114	地活		8114					8114
	②27名		包括	8114						
	③なし		介護							
			生活							
介護の日企画 ～相続対策講座～	①地域一般	2116	地活		2116					2116
	②18名		包括	2116						
	③なし		介護							
			生活							
多世代交流 ～東寺尾どろんこ 保育園～	①保育園児他	324	地活		324					324
	②54名		包括	324						
	③なし		介護							
			生活							
見守りチャレンジ 2回	①地域一般	9674	地活		9674					9674
	②51名		包括	9674						
	③なし		介護							
			生活							
支え合いネットワーク 第13回	①地域一般	186300	地活		51300					51300
	②50名		包括	51300						
	③なし		介護							
			生活	135000						
お茶飲み会 (H30.4～H31.3)	①高齢者	25890	地活	9290	16600			6000		19890
	②30名程度		包括							
	③300円		介護							
			生活							
夕暮れ大家族 (H30.4～H31.3)	①地域一般	61391	地活	6391	55000					61391
	②10名程度		包括							
	③500円		介護							
			生活							
障害児余暇支援事業 (年2回)	①障害児	13611	地活	13611				6000		7611
	②10名程度		包括							
	③0円		介護							
			生活							
親子向け事業 くりんくらん	①親子	20000	地活	20000				20000		
	②20名程度		包括							
	③なし		介護							
			生活							
ひきこもり講演会 (年11回)	①地域一般	98695	地活	98695				90000		6695
	②60名		包括							
	③なし		介護							
			生活							
大人のお出かけ (年3回)	①65歳以上	119185	地活	26185	93000					119185
	②18名		包括							
	③1500円		介護							
			生活							

平成30年度 自主事業収支報告書

フリーマーケット (年1回)	①地域一般	30308	地活	8908	21400				30308
	②300名		包括						
	③なし		介護						
			生活						
流しそうめん (年1回)	①地域一般	15460	地活	5760	9700			15460	
	②100名		包括						
	③100円		介護						
			生活						
夏休みこども科学教室 (年1回)	①小学生	972	地活	972				972	
	②100名		包括						
	③なし		介護						
			生活						
リアルHUG訓練 (年1回)	①地域防災拠点	7711	地活	7711					7711
	②90名		包括						
	③なし		介護						
			生活						
貸館清掃と懇親会 (年1回)	①貸館利用団体	5940	地活	5940					5940
	②50名		包括						
	③なし		介護						
			生活						
0歳からのコンサート	①地域一般	5000	地活	5000			5000		
	②60名		包括						
	③なし		介護						
			生活						
バレンタインクッキー作り	①小学生	3540	地活	40	3500			3540	
	②20名		包括						
	③300円		介護						
			生活						
畑で収穫・カレー作り	①小学生	7125	地活	3325	3800			7125	
	②20名		包括						
	③200円		介護						
			生活						
夏休み大家族	①障がい児他	10784	地活	7684	3100		3000		7784
	②12名		包括						
	③300円		介護						
			生活						
鶴見サマーフレンド	①障がい児他	70371	地活	0		70371			70371
	②9名		包括						
	③なし		介護						
			生活						
冬休み大家族	①障がい児他	3372	地活	1272	2100				3372
	②7名		包括						
	③300円		介護						
			生活						
ケアプラザupp	①地域住民他	10692	地活	10692					10692
	②3名程度		包括						
	③なし		介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

# 平成30年度 自主事業報告書

## 横浜市東寺尾地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
事例検討の手法	特定事業所加算事業所に事例検討会が義務付けられたことを踏まえ、事業所同士し事例検討会が活発化するよう、手法やルールを学び、グループワークで事例検討を行った。	8月31日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
困難事例カンファレンス	強迫性神経症を患うクライアントへの対応と、専門職としての支援方法を、精神科医師を交え検討した。	1月21日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
ひがし脳トレ楽習教室	①脳の活性化②外出機会の提供③仲間づくりを目的としてレクリエーションや調理実習・茶話会を通して「認知症予防」を目指した。 また、外出機械の提供をした。(バスハイクやクリスマス会など)	5回/1コース ①4月～7月 ②9月～12月 ③1月～3月 4月3日・12月18日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
ひがし脳トレ楽習教室(新年会)	ひがし脳トレメンバーの親睦を深めると共にメンバーの仲間意識を高める	1月22日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
真夏の涼み処～東寺尾ミステリーシアター～	外出機会を提供し閉じこもり予防を行うと共に地域住民が集うことができる。	7月31日・8月7日 8月21日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほほえみボランティア連絡会	情報交換を行いながらボランティア活動が円滑に行えるよう支援するために開催する連絡会。	12月5日・1月7日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
健康ひろば実践編!脳と足を鍛えて転倒予防(出張も含む)	地域に出向くなどして介護予防の具体的な取り組みを実践するため講座を開催する。	10月9日・11月19日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
徘徊高齢者検索アプリ登録会(SOYLINK)	生麦第二地区の事業所へ徘徊高齢者検索アプリ登録の説明及	7月20日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
サロンはなみずき研修会スリーA体験会	サロン運営委員会よりサロンで体験会を実施したいとの要望	10月23日

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
助け合いボランティアひまわり勉強会（移動支援サービスについて）	勉強会を実施することでボランティアメンバーの視野を広げるため。生活支援ボランティアグループで実施可能な移動支援サービスの方法を学んだ。	2月10日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
平成30年度助け合いボランティアひまわり総会（生支、包括共催事業）	1年間の振り返り。次年度の活動計画を立てる。昼食の時間を使いランチミーティングを実施。その後、次年度実施予定の移動支援サービス開設について検討する。	3月10日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
出張！介護者のためのオレンジサロン	介護者の方が集まり、安心して介護の御苦勞を吐露し情報を共有する。また介護者の気分転換ができる時間と場所とする。	①5月29日 ②9月27日 ③1月10日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
東寺尾キャラバンメイト連絡会	認知症になっても住みやすい地域づくりをすすめるためにキャラバンメイトと協働して認知症の普及啓発活動をおこなうための意見交換の機会とする。	5月18日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
生麦第二地区民生委員茶話会	民生委員さんが訪問する際に認知症状の早期発見の意識を高める研修会を実施。架空事例を用いて3つの場面に分けてk J法を使って認知症による行動・発言ではないかと感じる点を皆で検討した。	2月14日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護の日企画～相続対策講座～	11月11日は「介護の日」であり、これからの介護に必要な情報提供をおこなう。	11月21日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
多世代交流～東寺尾どろんこ保育園～	生二ひまわり会の人形劇を通じて認知症について簡単にわかりやすく伝える。	2月26日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
見守りチャレンジ2回	認知症の方への対応を理解し、声掛けや保護を模擬体験する。認知症でご自宅に帰れなくなった方を地域の中で早期に発見するためにSOYLINK登録者を増やし、システムを活用し実際の運用を訓練する。	①5月26日 ②11月10日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
支え合いネットワーク第13回	バーチャルリアリティ（VR）の技術を活用し、「認知症を体験する」ことで認知症のある方への理解を深める。地域を支える関係者の方々が今後の活動の中で活かす研修会を実施した。	1月30日

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
お茶のみ会	趣味活動や新しいことへの挑戦、仲間との出会いを通して心と頭と身体の活性化と生きがい作り、外出支援（閉じこもり予防）を図る。 前半は体操や手芸、音楽鑑賞などのレク。 後半はお茶を飲みながら歓談	毎月第3水曜日 10時～12時
事業名	目的・内容	実施時期・回数
夕暮れ大家族	地域の人達と一緒にご飯を作って食べることで、家族のような自然なつながりを作ることが目的。	毎月第1土曜 16：00～18：00
事業名	目的・内容	実施時期・回数
障害児余暇支援事業	①重症心身障害児と保護者のための乗馬体験教室の実施。（寺尾奉行共催事業） 御殿場カルチャーファームの馬を3頭を、10時～15時の間遊水地スポーツ広場を2周ずつ順番に乗馬できる企画。 ②重身余暇クリスマスパーティ。	5月25日：乗馬体験 12月15日：クリスマス
事業名	目的・内容	実施時期・回数
親子向け事業 くりんくらん	親子の居場所づくり。仲間づくりと交流の場提供。 地域の活動団体「くりんくらん」による手遊び・パネルシアター・指人形・絵本を親子で楽しむ。	5月14日 8月20日 12月11日 2月19日 (4回実施)
事業名	目的・内容	実施時期・回数
ひきこもり講演会 (年11回)	①□講演会) 不登校・ひきこもりが終わる時 ②□講演会) 「ひきこもる」ということ ③(講座) 不登校・ひきこもりに関する座談会	①9月15日(土) ②毎月第4水曜日 9回開催 ③3月31日(土)
事業名	目的・内容	実施時期・回数
大人のお出かけ	外出支援・介護予防・なかまづくり。 ①マイクロバスで成田山新勝寺へ参詣、うな重を楽しむ。 ②浜梨狩り&江の島ランチ	①4月24日 ②8月31日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
フリーマーケット	H21年3月開催のみつばち会フリマ協力を機に一般向けで実施している事業。ケアプラザ隣の公園の有効活用と共にケアプラザにかかわった事のない人との交流の機会を作りケアプラザの周知を図る。	5月27日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
流しそうめん ながーい!! 流しそうめん大会	認知症理解普及啓発。公園の端から端まで渡る、長い竹のなしそうめんを楽しみながら、認知症理解普及の啓発をする。 多世代が交流できる機会の提供とケアプラザ周知を図った。 大学生にボランティア活動を依頼し、若手の地域活動の機会を提供した。	7月29日

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
夏休み子ども科学教室	小学校の枠を超えて子ども同士の交流を図る。 学校以外で科学を身近に楽しむ。 地域の学校の先生が、学年別に内容を変えて科学実験教室を開催。10時～12時半。	8月13日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
リアルHUG訓練	9月1日の防災の日にかけて防災の知識普及啓発。 昨年要援護者搬送訓練を行った所、防災拠点運営委員より「実践に基づいていてとてもよかった」という意見があったので、地域で普及されているHUGゲームを実践版にして拠点運営委員と地域住民を交えて実施。避難所運営の大変さを地域住民と共に共有しました。	9月1日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸し室清掃と懇親会	ケアプラザ清掃を通して福祉保健団体がさらに主体的にケアプラザを利用しながら活動を広めてもらうこと、団体同士の交流を深める場の提供を行った。 福祉保健団体による年間2回の福祉活動の一環として開催	11月26日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
0歳からのコンサート	手遊びなどを取り入れながら子守歌・童謡などの歌を聞く。	10月30日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
バレンタインデーのお菓子作り	学区を超えた子ども同士の交流を図る 子どもと親と一緒に参加、保護者にケアプラザ内で提供する相談支援内容や介護保険サービスの提供など知る機会を作った。今後ダブルケアなど若い世代が直面する介護の課題への支援機能も兼ねて実施した。	2月11日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
畑で収穫、カレー作り	土に触れ、実っている野菜を自分で収穫し、調理して食べるという体験を通して食育につなげる。 場所；東寺尾一丁目ふれあい公園協働農園 どんな野菜が育っているか見学&スイートコーン・じゃがいもなどを収穫させてもらい、畑の野菜を使ったカレーをみんなで作って食べた。	8月26日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
夏休み大家族	障害児の夏休みの余暇活動のサポート、保護者のレスパイト、地域の障害児理解を促進。 お昼ご飯を作ることからスタートし、午後はおやつ作り、簡単な工作を経て、DVD鑑賞などでゆっくり過ごす。10時～14時。	8月11日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
鶴見サマーフレンド2018	障害児の夏休みの余暇をサポートする。保護者のレスパイト。地域の障害児理解を進める。	7月21日 研修会 8月10日外出事業 戸塚YMCA 8月21日外出事業 三浦YMCA

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
冬休み大家族	障害児の冬休みの余暇をサポート、保護者のレスパイト、地域の障害児理解を進めた。 お昼ご飯を作ることからスタートし、午後はおやつ作り、クリスマスツリーの飾りつけ、DVD鑑賞などでゆっくり過ごす。10時30分～14時30分	11月22日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアプラザupp	健康維持・増進、ダンスを通じて仲間づくりを行う。	毎週火・金曜 18時～19時
事業名	目的・内容	実施時期・回数
囲碁将棋開放デー	男性が参加しやすい催しを行うことで、仲間との出会い、心と頭と身体の活性化と生きがい作り、外出支援（閉じこもり予防）を図る。  囲碁将棋を自由に楽しんでもらうと共に、お互いに教えあったり助け合ったりすることで支えあい精神を深めました。ボランティアが3人駐在し、参加者には事業の参加を通じてボランティア活動へつなげました。	毎月第2.4土曜日 9:30～16:30
事業名	目的・内容	実施時期・回数
せせらぎ定例会	高齢者宅の介護保険の隙間を埋めるボランティアグループ。地域の中での助け合いを深める。このグループが各地域に出てネットワークが出来ることを目指す。  活動報告と情報交換をおこなう。	毎月第2月曜日 10:30～12:00
事業名	目的・内容	実施時期・回数
親子向けお部屋開放	親子の居場所作り。仲間作りと交流おもちゃ等を置き、出入り自由で過ごしてもらおう。利用者がいる時に催しの宣伝をしたり、ニーズ調査をする。	月曜～金曜 《開放時間》 9:30～16:30
事業名	目的・内容	実施時期・回数
東寺尾商品開発部	作業所の製品作成のお手伝いをする事で、障害に対する理解を深める。活動を通してやりがい、生き甲斐を持ち、仲間同士の交流を図る。 地域作業所自主製品作りのお手伝い。開発部自主製品の作成。売り上げは地域貢献活動に役立てる。	毎月第2金曜日 10:00～12:00
事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボッチャ交流会	地域の方達をはじめ、障害のある方々、誰でもが参加でき、身近な場所にて、気軽にとりくめるスポーツの体験をしてもらう。ルールを理解し、プレイの楽しさを深く感じてもらう。チームワークの必要性から気持ちのつながりを体験してもらう。 今年度は出張ボッチャで普及活動を行う	毎月第3土曜日 10:00～12:00
事業名	目的・内容	実施時期・回数
歌声ひろば	童謡唱歌等を歌うことで、心身の健康増進を図り、仲間作りをする。 ギターの弾き語りに合わせて、好きな歌を歌う	毎月第4木曜日 15:00～16:00

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
コンサート	恒例となったコンサート、ケアプラザに気軽に足をはこんでもらい、さらに身近な存在に感じてもらう。 ・4月29日：横浜ウインドオーケストラ ・9月 2日：橘学苑吹奏楽部	4月29日 9月2日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
秘密基地づくり	自然あふれる白幡公園の活用 子ども達とその保護者が自然に触れる機会を作る。 地元愛を育む 参加者同士の交流、自治会同士の交流 ダンボールや端材でそれぞれが好きな秘密基地を作り、参加者でカレーを秘密基地内で食べ交流を図る。 10組の親子が参加。	4月7日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
チャリティ包丁研ぎ、まな板削り	土建組合、組合委員の方達の協力による包丁研ぎとまな板削りの実施。場所の提供でケアプラザにくるきっかけとなる。	6月16日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
上寺尾小学校4年生交流訪問	総合学習の時間を利用して、ケアプラザの理解と高齢者との交流を図る。社会福祉士と地域交流コーディネーター二人で高齢者と認知症についての事前授業を実施した。クラスごとに年4～5回、デイサービスで高齢者と交流を行った。	3クラス×4回 6月から12月にかけて合計12回実施
事業名	目的・内容	実施時期・回数
水遊び・プール遊び	親子の居場所づくり。仲間づくりと交流。 実施場所は、ケアプラザ隣の公園にて参加者と一緒に準備片づけを一緒に行った。ビニールプール4つ設置して自由に遊ぶ場を設けることが出来た。	7月25日 8月3日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
寺尾奉行流しそうめん	寺尾奉行という活動のPR。住民同士の交流。歴史的建造物のPRと有効活用。馬場の赤門公園にて流しそうめん、スイカ割を開催。 馬場地域ケアプラザ共済事業	8月7日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
笑福東祭	ケアプラザ機能の周知。 地域で活動する団体の活動の場を提供。 多世代が気軽に足を運んでもらえる催しを地域の各種団体・グループに実施してもらい、それぞれの活動の発表や報告の場としても機能した。「あいねっと」の活動紹介やアンケートによる地域住民の意識や課題の収集も行った。	10月28日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
馬場保育園出張シリーズ	・親子の交流、仲間作り、親子での外出支援 ・ケアプラザのPR ・馬場保育園近隣の保育園の先生による子育て相談 ・手遊びや、リズム遊びなどの実施	11月19日

# 平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おちば遊びプロジェクト	子どもが地元で自然とふれあうきっかけ作りと親子の交流。ふれあい樹林で、落ち葉プールを楽しみ、焼き芋体験と試食をした。 ふくまち連絡協議会（寺尾CP・馬場CP・東寺尾CP含む）事業への共済事業として実施	12月15日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
パパと一緒にのミニ運動会	鶴見区内に子育て世代が多く引っ越してきている事から企画。パパの育児参加、ママのレスパイト、ケアプラザの周知、郷土愛の醸成、パパ同士の交流、新人地域交流コーディネーターの研修を目的に実施した。 鶴見区地域交流連絡会共催事業	3月24日